

### これまでの活動報告・経過

#### 人事について

高等研究院の発足とその後の運営に大きなお力を注がれた初代院長の野依良治教授は、平成15年度10月1日付で理化学研究所理事長に就任されました。この異動に伴い、文学研究科の佐藤彰一教授が本院の運営推進委員を退任され、同年10月1日をもって二代目の院長に任命されました。

#### 高等研究院・研究推進委員会が発足・開始

去る平成15年5月26日(月)、全流動教官・基幹教官および2名の運営推進委員をメンバーとする高等研究院・研究推進委員会が発足しました。同委員会では、流動教官の交流を通じて、本院における研究プロジェクトの推進に必要な事項を全般的に取り扱います。その第一回目では、平成14年度採択分の流動教官によって、研究に関わる様々な情報交換が行われ、本院における研究が目指すべき方向性について最初の意見が取り交わされました。同年7月7日(月)に行われた第二回目でも同様のメンバーに参加いただき、忌憚のない意見交換のなかから、研究プロジェクトを効率的に推進するための研究環境を早急に整備することの必要性が強調されました。今年の11月28日(金)に開催された第三回目には、平成15年度採択分の流動教官14名が新たに加わり、流動教官の研究環境整備、新設される高等総合研究館の利用公募などにつき議論を展開していただきました。

#### 第1回 高等研究院セミナー開催される

去る平成15年7月25日(金)、高等研究院設立以来初めての高等研究院セミナーが、名古屋大学文系総合館7階カンファレンスホールにて開催されました。本セミナーは、高等研究院・流動教官の研究発表をとおして、本学構成員を含めた学内外の方々との学際的な知的交流を促進し、その結果、「知力の結集から触発」を促すことを目的としています。それぞれの専門分野を一般の方々にも十分ご理解いただけるよう紹介していただき、名古屋大学の代表的な活動内容の一端を社会に発信・還元するための礎を築いていきたいと考えています。

会場のカンファレンスホールは、金曜の夕刻にもかかわらず学生を含め約30名の皆様にご参加いただきました。北住高等研究院副院長から開催の挨拶があった後、記念すべき最初の講演は、文学研究科・佐藤彰一教授の「ポスト・ローマ国家の自己維持機制」に関する内容でした。ポスト・ローマ期時代の国家のメカニズム(自己維持機制)や王朝政治に関する詳細な分析研究について古文書(テキスト科学)を駆使することの重要性と、その研究成果もたらす波及効果について分かりやすくご紹介い

ただきました。続いて経済学研究科の家森信善助教授から「預金保険とディスクロージャー」と題して、現在の不況下における日本の銀行の抱える問題点と金融経済再生のための打開策についてのお話がありました。銀行からの情報公開(ディスクロージャー)とペイオフ解禁を間近に控えた我々の生活との密接な関わりについて興味深い解説もいただきました。講演内容は私たち聴衆にとても大きな感銘を与えるような感動的なものでした。実際に、講演後の質疑応答では、学生をも含む数多くの参加者から様々な質問が寄せられ、それぞれの話題への関心の高さをうかがわれました。

セミナー終了後、同館7階オープンホールに場所を移し、懇親会が15名ほどの参加者によっておこなわれました。話題提供者である佐藤教授、家森助教授をはじめとして他の流動教官の方々と囲みつつ、参加者の歓談がなごやかに続きました。



#### 第2回 高等研究院セミナー開催される

去る平成15年9月26日(金)、第2回目の高等研究院セミナーが、名古屋大学ベンチャービジネスラボラトリー3階 ベンチャーホールにて開催されました。お忙しい中、今回は約40名ほどの皆様にご参加いただきました。

最初の講演は、生物機能開発利用研究センター・北島 健助教授の「あいまいな糖鎖の中の研究」に関する内容でした。細胞接着や様々な生体内分子認識システムに関わる細胞表面上での糖鎖の役割について、分かりやすく説明いただきました。糖鎖が細胞内のシグナル伝達にどのような働きを持っているかなど、今後の展開に大きな期待がもたれました。

続いて、工学研究科の土井 正男教授から、「ソフトマターの統合化シミュレータOCTAの開発」と題してお話を頂戴しました。主に高分子、液晶、ゲルなどソフトマターと称される有機化合物群の特性を予測するためのシミュレータと、その統合化に必要なソフトウェアOCTAを中心とした興味深いご研究についての解説をいただきました。OCTA開発における苦労話などを含め、これまでの経緯や今後の展望についても噛み砕いてご説明

いただいた結果、参加者のより深い理解が得られるような内容でした。実際に、講演後の質疑応答では、前回と同様、学生をも含む数多くの参加者から様々な質問が寄せられ、会場は熱気に溢れていました。セミナー終了後には、同場所にて、話題提供者や学生を含め15名ほどの参加者によって懇親会が催され、研究の話題などで話がはずみ、時が経つのを忘れるほどでした。

両セミナーとも無事盛況のまま終わることが出来ました。第3回目は今年12月中旬頃に開催予定です。最後になりますが、本学構成員の皆様方には、本セミナーの趣意をご理解いただき、今後ともよろしくご支援のほどお願い申し上げます。

### 運営費について

本院は現在のところ、学内措置による設置であるため、総長裁量経費を財源として利用し、運営費に充てています。平成15年度予算は主に、本院のプロジェクト採択者および専任教員に割り当てられ、各々の研究費として有効に使われています。

### 今後の活動内容とお知らせ

#### 「高等総合研究館」利用者の募集について



現在建設中の「高等総合研究館」(名古屋大学東山キャンパス旧核融合研究所跡地)は来年3月末に竣工が見込まれています。これに伴い本研究館の利用に関わる全学公募を12月初旬に開始し、12月中旬に締め切る予定です。なお、本募集内容と建物利用に関する詳細につきましては、高等研究院ホームページ(<http://www.iar.nagoya-u.ac.jp>)で全学に向けて公開しております。

### 高等研究院セミナーの開催について

第3回高等研究院セミナーを今年の12月19日(金)に開催する予定です。話題提供者は理学研究科の篠原久典教授と福井康雄教授、本院流動教官のお二人です。開催場所や開始時間などの詳細につきましては高等研究院ホームページ(<http://www.iar.nagoya-u.ac.jp>)とポスター、チラシなどで全学に向けて12月初旬に公開いたします。話題提供者である流動教官の先生方には、専門外の方々でも分かりやすいご講演をお願いしております。また、第4回、第5回のセミナーも来年開けに予定しておりますので、皆様、奮ってご参加下さい。

カーボン・ナノテクノロジーの展開  
HISANORI SHINOHARA

宇宙をサブミリ波で見る  
YASUO FUKUI

INSTITUTE FOR ADVANCED RESEARCH  
高等研究院  
<http://www.iar.nagoya-u.ac.jp>

第3回  
【高等研究院セミナー】

理学研究科 教授 篠原 久典  
理学研究科 教授 福井 康雄

2003.12.19 (FRI)  
平成15年12月19日(金) 18:00~  
名古屋大学 ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー 3階  
ベンチャー・ホール  
入場無料  
名古屋大学 高等研究院  
〒464-8601 名古屋市中区東山1-46  
TEL: 844-7880 FAX: 844-7884  
E-mail: iar@iar.nagoya-u.ac.jp

本院に関する詳細につきましては、高等研究院ホームページ  
(URL:<http://www.iar.nagoya-u.ac.jp>)をご参照下さい。  
このURLから2003-2004年版 高等研究院パンフレットもご入用になれます。